

令和六年「年頭にあたり」



木古内町議会議長

又 地 信 也

町民の皆様、新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、新たな気持ちの中で、輝かしい新年をお迎えのことと思います。心からお祝い申し上げます。

昨年を振り返ってみると、世界中が恐怖でおびえた新型コロナウイルス感染症でしたが、二類から五類になり安堵いたしました。とはいえ、七回目のワクチン接種を余儀なくされ、いまだ不安が消えないのが現状であると思われまふ。加えて年末からインフルエンザが後を追うように流行し、感染者も急増しており、一層の注意が必要な新年を迎えることになりました。また、昨年は大変な猛暑に見舞われ、全国津々浦々で熱中症により亡くなられた方が過去に類を見ないほど多発した年でもありませんでした。

世界情勢では、ロシアとウクライナの戦争が今なお続いており、解決のめ

どさえ立たない状況の中、この戦争によって世界経済に多大な影響を及ぼし、日本国内の物価高騰の原因でもありました。また、イスラエルとハマスの戦闘では、生まれて間もない子どもを含め、罪のない多くの子どもたちが犠牲になっており、いずれの戦争も一日も早い終結を迎え、平和を取り戻してほしいと、一心に願ってやみません。

さて、町内の令和五年を振り返ってみます。四月の町議会議員選挙は定数十人に対し立候補者九名、欠員一名の無投票当選という過去に例のない選挙となりました。議会としては議会改革調査特別委員会を設置し、全国的な傾向にある議員のなり手不足を乗り越えるための議論を積み上げ、努力してまいりました。全国町村議会議長会でも議員のなり手不足が進んでいることに懸念を示し、ここ数年來、その解決策を見出すための検討を重ね、方向性を総務省に要望、申し入れてまいりまし

たが、納得のいく回答が得られていないのが現状です。欠員一名の中で議員一同鋭意努力し、「持続可能な木古内町のまちづくり」、「全町民が安全・安心して生活できるまちづくり」のため、いろいろな角度から議論をし、町民の負託にこたえるべきとの心情のもと励んでおります。

本年四月は町長選挙の改選期にあたり、議員の補欠選挙が同時に行われます。木古内町の未来のために、老若男女問わず議席を埋めてほしいものです。十二月の定例議会では、再度「議会改革調査特別委員会」を設置いたしました。新たな角度から町民の声を聞き、時間をかける中で何かしらの結論が出るものと思われまふ。一月十七日と二十日には議会懇談会を開催し、議員定数について住民の皆様から直接お話を聞くことで、今後の議論の参考にさせていただきますと考えております。また、議会に関心を持っていただくため、議会モニター制度も取り入れました。議会傍聴（四回の定例会と十回以上に及ぶ常任委員会等）にぜひ足を運んでください。議会活動の本来の姿を知っていただけるものと思ひます。一

方で、議会自らも足を運ぶ機会を多くつくり、町民の声をしっかりと受け止め、より一層のまちづくりに努める議会の姿を構築したいものです。

少子高齢化の波は当町ばかりではありませんが、急激な人口減少、高齢者比率約五十%、総人口三千七百人弱の当町ではありますが、函館・江差自動車道（茂辺地～木古内間）の開通により、交流人口は大きく拡大いたしました。交流人口の拡大は町の発展に寄与する柱です。災害のない木古内町をアピールし、緑豊かな自然に恵まれたふるさと木古内の持続可能なまちづくり、安全安心な生活のできる木古内町のさらなる飛躍を願ひ、行政・議会・町民がワンチームとなり前進したいものです。

山積する課題解決のため、町民の皆さまの幸せを願ひ、議員一同初心を忘れることなく、惜しみない汗を流し、一意専心努力し、発展し続ける木古内町の創造に努めてまいります。

今年辰年、天空高く昇る龍の勇姿、皆様にとって良き年でありますことを祈念し、新年のご挨拶といたします。